

(10)九州



九州地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

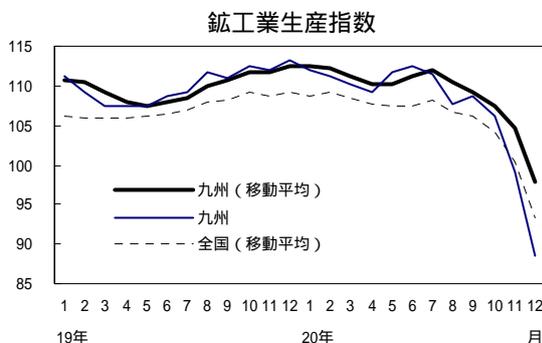
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 20 年 11 月）	今回（平成 21 年 2 月）	
景況判断	弱含み	急速に悪化	
鉱工業生産	緩やかに減少	極めて大幅に減少	
個人消費	弱含み	緩やかに減少	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	弱含み	急速に悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。

電子部品・デバイスは、シリコンウエハやモス型計数回路（マイコン）を中心に、大幅に減少している。輸送機械は、船舶が高水準の受注残を抱えフル操業を続けているものの、自動車は落ち込んだことから、全体では大幅に減少している。食料品・たばこは、焼酎や清酒を中心に、減少している。一般機械は、海外向けの水管ボイラや一般用蒸気タービンを中心に、大幅に減少している。化学は、パラキシレン（ポリエステル原料）の反動減もあり、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
電子部品・デバイス	15.6	3.3	11.5	12.9	29.6
輸送機械	15.4	0.9	18.1	19.0	46.4
食料品・たばこ	10.6	0.2	2.8	3.4	3.4
一般機械	10.6	5.4	17.0	18.9	2.5
化学	8.2	2.8	9.2	13.5	12.1
鉱工業	100.0	1.7	10.3	11.9	8.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

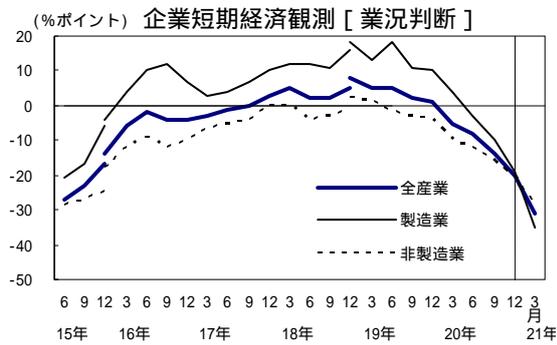
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

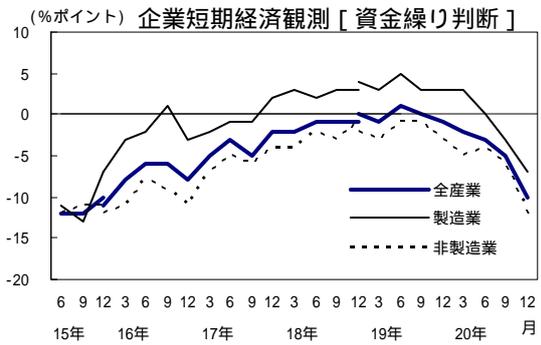
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

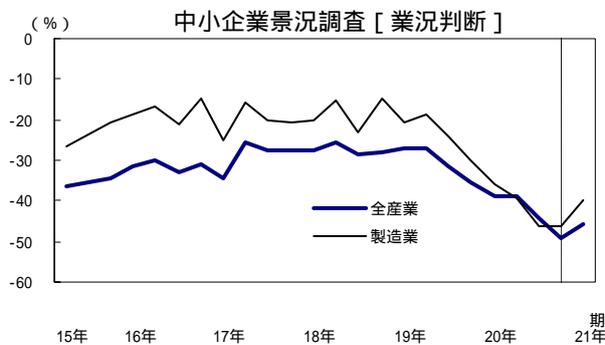
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

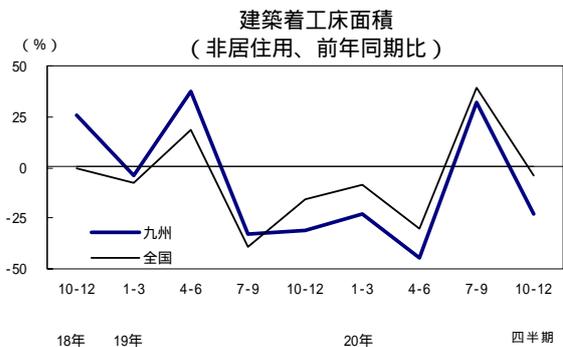
「取引先は在庫調整などで全く受注を出してくれない。中国生産が間に合わなかったり、小ロットで中国で投入ができなくなったものの追加受注が来るくらいである(繊維工業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	16.7	5.1(0.4)
製造業	32.3	17.5(0.9)
非製造業	5.1	5.8(0.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

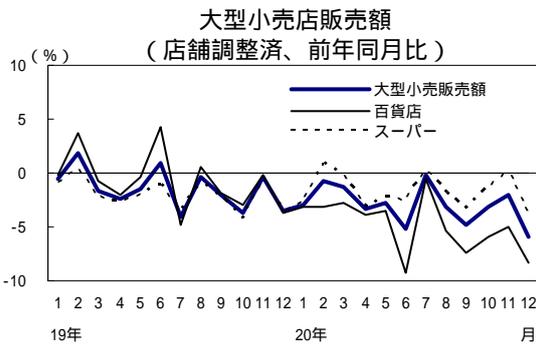
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、菓子等の飲食料品が堅調であったものの、衣料品が秋冬物全般で動きが鈍く、前年を下回った。11月は、催事や歳暮ギフトの早期受注により飲食料品に動きがみられたものの、衣料品がコート類を中心に不調で、前年を下回った。12月は、年末商戦が不調でコート類や高額アクセサリーの売上が落ち込んだことに加え、飲食料品も歳暮ギフトの早期受注の反動がみられ、前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の1月の売上高は前年同月比で9.4%減となっている。

スーパーは、飲食料品がプライベートブランド商品や鍋物商材を中心に好調であったものの、衣料品の動きが鈍く、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「NHK大河ドラマが終わり観光客が少なくなった。中国、韓国、台湾からの客も少なくなった。正月を過ぎてからはかなり減っている(高級レストラン)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



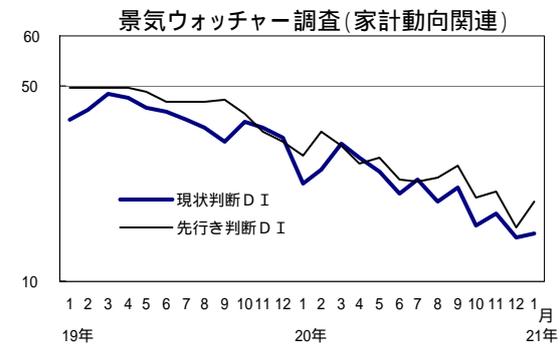
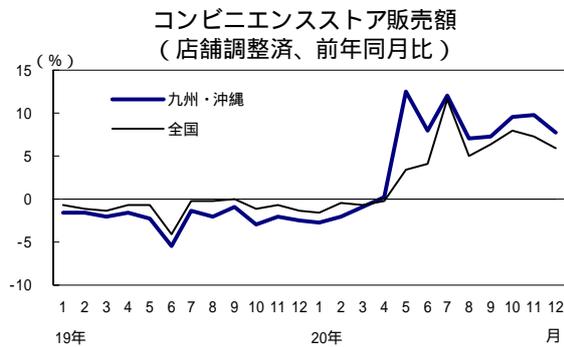
(前年同期比、%)

	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.7	3.8	2.5	4.0
百貨店	3.1	5.5	4.0	6.7
スーパー	0.8	2.6	1.5	1.9
コンビニ	1.8	6.9	8.8	9.0
景気ウォッチャー	33.6	31.9	28.8	21.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

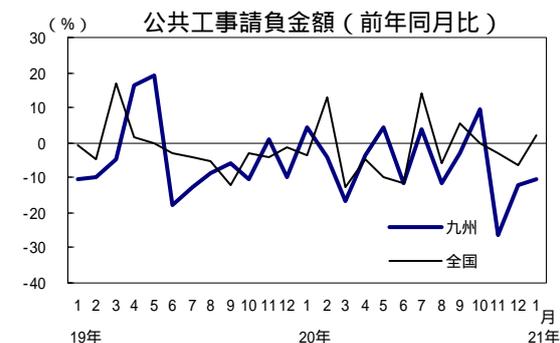
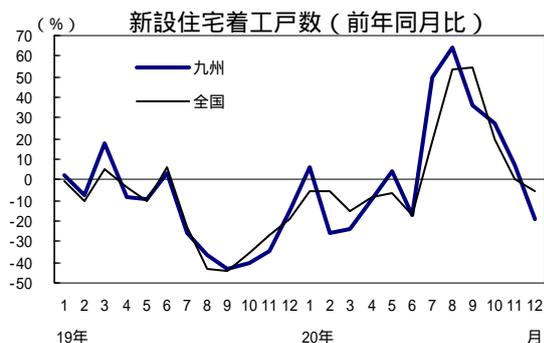
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、分譲を中心に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

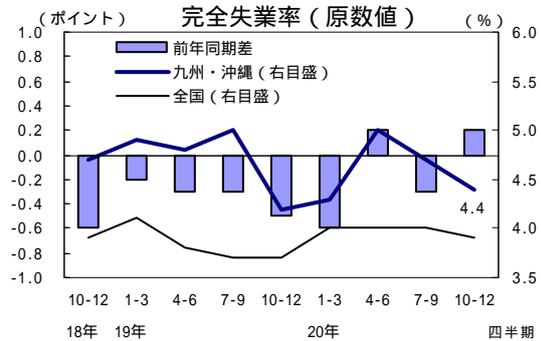
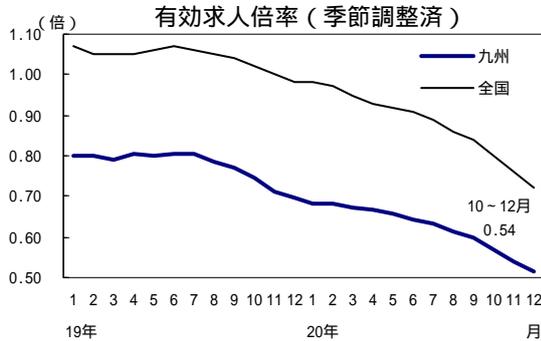


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

「内定取消し若しくは内定辞退の強要が出始めている (学校 [大学])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

1月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	313	352	357	364	105
(前年比)	16.8	8.0	11.2	17.4	26.5
負債総額	795	1,712	1,575	1,916	423
(前年比)	12.7	69.5	76.6	25.8	54.3



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・寒い割に冬物衣料品や暖房用品等の動きが悪く、処分品もなかなか売れない (スーパー)。

<先行き>

・現状維持が精いっぱい、今後はますます悪くなる。来年度、環境基準適合車の重量税等の減免が予定されているが、買い控え等もあり、大きくプラスには働かない (乗用車販売店)。

